

新入生諸君へ

学長 中 嶋 嶺 雄

(国際関係論)

新入生諸君！入学おめでとう。それぞれに厳しい受験生活をくりぬけて、本学に見事合格したのですから、解放感とともに未来への大きな夢を描いていることでしょう。心からお祝い申し上げます。

新しい世紀を目前にして、私たちの同時代史には、今、様々な変動が起こっています、永い歴史と伝統を誇る本学は、このような時代の転換を真剣に受けとめ、21世紀の新しい東外大像を求めて、大学改革への歩みを大きく踏み出してきております。

その一環として、一昨年度からはさらに、50校に近い世界各地の交流協定校から迎える短期留学生中心の英語や地域言語による「東京外国語大学国際教育プログラム(ISEPTUFS)」もスタートしました。本学への留学生は現在570名で全学生数の13.5%にも達し、日本の大学で最も留学生比率の高い大学になっており、本学はきわめて国際色豊かな、居ながらにしての異文化交流の場になってきております。留学生関連では、本年度から、私が現在、国際事務局の事務総長を務めているUMAP(アジア太平洋大学交流機構)の活動も本格的に始まり、アジア太平洋地域の大学間での単位互換が可能になりますが、本学はその拠点校になる予定であります。

こうして本学は言語を核としたForeign Studies(外国学)の総合大学としての発展を計りつつありますので、新入生諸君は、前半の2年間で集中的・重点的に専攻語をマスターし高度の外国語運用能力を身につけて、さらに専門的能力を高めていただきたい。そうしてこそ諸君は、国際接触の第一線を担うばかりか、真に国際的なリーダーたり得る人材になれるでしょう。

国立大学のあり方が厳しく問われている今日、本学もまた、さらに大学改革を大きく進めて真に個性



的かつ創造的な大学に生まれ変わろうとしております。またマスメディアでも注目を集めている「五大学連合」(東京工業大学、一橋大学、東京医科歯科大学、東京芸術大学と本学との多面的な連携構想)も新しい世紀の始まりとともに具体化する予定ですので、優秀な諸君の期待に十分応えられるものと確信しております。

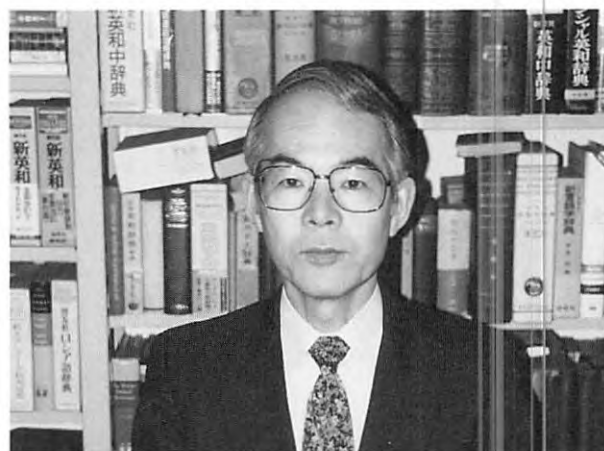
時あたかも本学では、いよいよ懸案のキャンパス移転統合が開始されることになり、工事は順調に進捗中ですので、諸君は本年2000(平成12)年10月からは、新しいキャンパスでの授業を受けられることとなります。

移転先の都下府中市の旧米軍キャンプ関東村跡地は、東京近郊に残された数少ない広大な国有地スペースとして絶好の立地条件にあり、ここに現キャンパスの約3倍の敷地を確保できましたので、私は学長として、移転先の緑豊かな自然環境を大切にしつつ、21世紀の日本を代表する、世界に誇れる大学キャンパスを実現したいと思っております。諸君、どうか期待して下さい。

以上のような意味で、諸君はまさに本学にとっての歴史的な再生の時期に、本学の学生であるのです。そのような誇りをもって、どうか大いに頑張ってください。諸君のご健闘を信じております。

大変の秋、挑戦の時

副学長（教育・学生担当）
高橋 作太郎



ここ何年かのあいだに日本の大学は大きな変貌を遂げた。多くの大学に存在した教養部という組織がすべて姿を消した。教養と専門の壁が取り払われ、前期2年の教養、後期2年の専門といった区分は希薄になった。もともと教養部がなかった外語でも、今から5年前の1995年に一大改革が実施された。「パンキョウ」として学生諸君からいささか軽んじられていた一般教育科目がなくなっただけでなく、ほとんどすべての科目区分が一新された。新たに総合科目が導入され、自由科目の制度が設けられた。卒業のために必要な単位も140から126へと減少した。創立以来100年の歴史を有した語学科（英米語学科、ドイツ語学科など）が組織替えされて課程となり、新制大学以来半世紀にわたって存続した語学・文学専修と国際関係専修、この2つの、中身は名称ほどには違わなかった課程に代わって、言語・情報、総合文化、地域・国際の3コースが設けられた。

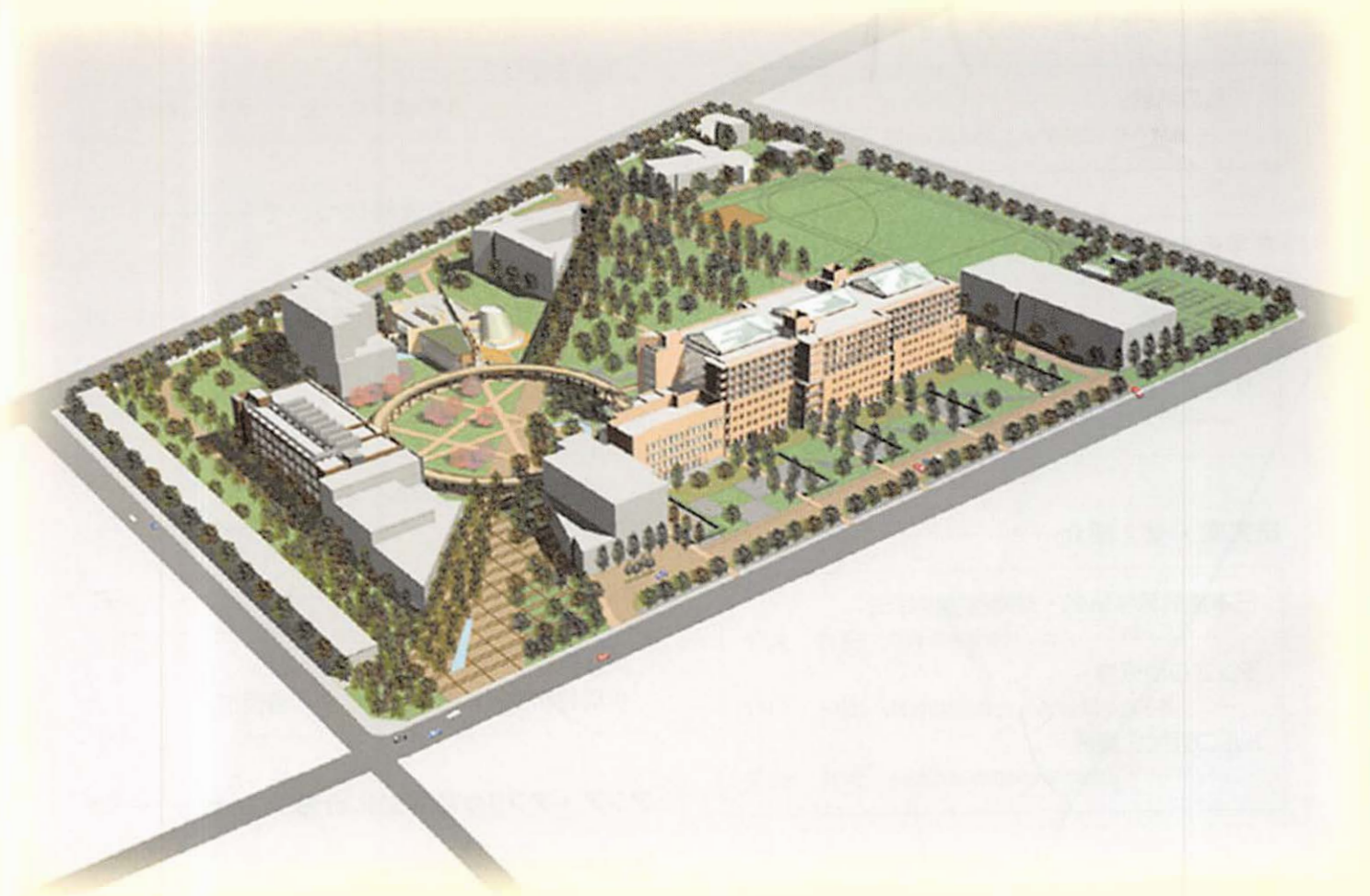
これら一連の改革は、学生諸君にとって何を意味したのだろうか。それは、大学生活の設計を諸君自身が自主的に決める自由が拡大したということだろう。「外国語」大学として、2年間の主専攻語24単位の特訓は変わっていないし、1年から2年、2年から3年と2度にわたって進級判定する外語独自の制度もお厳然として存在するが、あとは、主専攻語をもとに、自分が将来何をしたいのか、そのためには大学で何をすべきかに応じて授業科目を選び取っていけばいい。必修単位削減による余暇ともあいまって、自分の描いた学生生活を実現する可能性が、かつての制度と比較して格段に高まったわけである。

では、改革は当初の思惑どおりの成果を挙げてきたのだろうか。一昨年度からその検証作業が、「自己点検」という形で行われて、新制度に伴うさまざまな問題点が明らかになってきた。それらをどう克服し、今後大学をどう変革していくかは、昨年秋以来、特別な委員会では集中的に議論され、3月末にはすでに結論が出ているはずであるが、例えば現在の外国語学部を複数学部に改組する、といった案も提

起されている。より実現性の高いのは、指導教官制の導入および卒業論文もしくは卒業研究の必修化であろう。これは、すべての学生が2年次ないし3年次において指導教官を選び、小人数ゼミに所属して、4年次にはあるテーマのもとにまとまった研究をものすることを義務づける体制である。「外語では君たちのやりたいことが、君たち自身の設計によって自由にできますよ」といっても、現実には自分が何をしたいのか、何に適性があるのかわからない学生が多い。教師は学生のそうした悩みにもっと手をさしのべるべきではないか、という反省がこの制度の背景にはある。同様の考えからすでに導入が決まっているのがオフィスアワーで、これは各教官が設定する面談時間のこと。この時間帯に研究室を訪ねれば、先生がよろず相談にのってくれる制度である。どうか大いに活用して、真に実のあるものにしてほしい。

以上は、新入生諸君にとって所与の制度であるが、君たち自身が身を以て一大変革を経験するのは、この夏に行われる新キャンパスへの移転であろう。大講義室には最新鋭の設備が導入され、小教室には外国語学習にふさわしい機器が装備される。情報処理センターの管理のもとに、キャンパスの各所に総数5、6百台のコンピューターが設置されて、情報リテラシー・コンピュータリテラシー教育が実施され、自由にパソコンが利用できるようになる。図書館は面目を一新する。しかし、何よりも学生諸君に歓迎されるのは、学生会館であろう。これまで外語には学生会館がなかった。新入生諸君は、先輩たちのこれまでのみじめな思いを、今年の前半と後半の生活を通じて体験することになるにちがいない。ただ、キャンパスはよくなるが、大学を取り巻く環境はいよいよ厳しい。ほんやり過ごしていたら就職もままならないだろう。しかし、厳しいときこそ挑戦の好機である。どうか心して4年間を過ごしていただきたい。

東外大ニュース No. 104



CONTENTS

新入生諸君へ

…………… 学長 中嶋 領雄… 1

大変の秋、挑戦の時

…………… 副学長(教育・学生担当) 高橋作太郎… 2

附属図書館は可能性の宝庫です!

…………… 附属図書館長 池端 雪浦… 3

生命科学の進歩は何をもたらすのか

…………… 保健管理センター教授 井上 哲文… 4

「新入生へ」

…………… 総合文化講座助教授 吉本 秀之… 5

卒業生から新入生へのメッセージ…………… 6

「私の挑戦」

… 株式会社 三省堂 外国語辞書出版部 山本 洵一

在学生から新入生へのメッセージ…………… 7

男子卓球部

…………… 東アジア課程朝鮮語専攻3年 田畑 俊明

サークルに入ろう!

…………… 欧米第一課程 英語専攻2年 一瀬 友里

研究室・ゼミ紹介…………… 8~10

日本語教育学研究・対照言語学ゼミ

…………… 言語・情報講座助教授 望月 圭子

モンゴル研究室

… 外国語学部(総合文化講座)助教授 岡田 和行

トルコ近代史演習

…………… 外国語学部地域国際講座教授 新井 政美

留学体験記…………… 11

「ウィーンより」

…………… 欧米第一課程ドイツ語専攻4年 野口 優子

新任教官の紹介…………… 12~14

外国語学部(言語・情報講座)教授	樋口 靖
外国語学部(言語・情報講座)講師	降幡 正志
外国語学部(総合文化講座)助教授	水野 善文
外国語学部(総合文化講座)助教授	米谷 匡史
外国語学部(地域・国際講座)助教授	大川 正彦
外国語学部(地域・国際講座)講師	千田 有紀
大学院地域文化研究科国際協力講座教授	西谷 修
大学院地域文化研究科国際協力講座助教授	中山智香子
保健管理センター助教授	塚越 昌幸

留学生便り…………… 15~16

留学生便り1

…………… 日本課程2年 張 至強(台湾)

留学生便り2

…………… 日本課程3年 金 甲任(韓国)

大学間交流協定の締結について…………… 17

東外大独立100周年

(建学126年)記念式典・事業…………… 18~19

東外大ニュース発行委員 望月圭子

留学生コーナー…………… 20

外国人留学生の皆さんへ

学務部だより…………… 21

保健管理センターからのお知らせ

平成12年度日本育英会奨学生願書受付

アジア・アフリカ言語文化研究所コーナー…………… 22

留日センターコーナー…………… 23

あとがき

投稿規定

<表紙の写真>

府中新キャンパス完成予想図